

AGRI WORK POINT

アグリ ワーク ポイント



茶指導販売課 菊川 響

3月に入ると、越冬芽が肥大し、萌芽や新芽の開葉が始まります。随時、気象状況や生育状況を確認し、一番茶摘採に向けた管理を行いましょう。

凍霜害と対策

気象予報によると、今年の3月は、晴れの日が多く気温も平年並みが高くなり、天候も数日の周期で変化します。気温が上昇して生育が早まると、急な温度の変化で新芽が凍結する凍霜害を受けることがあります。摘採時期の遅れや収量・品質低下の原因となるため、対策を行いましょう。

①**送風法**：防霜ファンを使い、茶株面より約4～5℃温かい上空の空気を送り、新芽の温度低下を防ぎます。設定温度は3℃です。

②**散水氷結法**：スプリンクラーの散水により茶芽を凍結させ、新芽の温度を0℃前後に保温します。1時間あたり3～4t/10aの水を使用するため、十分な水の確保が必要です。

芽出し肥の施用

主に一番茶の品質を高めるため、3月中下旬～4月上旬頃に窒素4～6kg/10aを、速効性肥料を用いて施します。液肥による施用も効果的で、液肥の速効性は、年間のうち比較的降水量が少ないこの時期の施肥に有効です。散布を行う際は各地区の防除規制に従い、適切に使用してください。

病害虫の防除

2月下旬～3月中旬は、引き続きクワシロカイガラムシ、カンザワハダニ、チャトゲコナジラミが防除対象です。

風当たりの強いほ場などでは赤焼病にも注意し、例年発生・既に発病しているほ場は、防除を行ってください。気温の低下により発生が助長されることがあるため、気象状況に注意しましょう。